

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795800081		
法人名	株ニチイ学館		
事業所名	ニチイのほほえみ加美北(大和路)		
所在地	大阪市平野区加美北6-10-13		
自己評価作成日	平成22年9月1日	評価結果市町村受理日	平成23年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2795800081&amp;SCD=320">http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2795800081&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成22年9月30日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

JRの駅から住宅地の中を少々の所に位置しています。ホーム敷地内の駐車場が広く、その駐車場で、だんじりの休憩場になったり、子供会の夏祭りでは、金魚すくい、ヨーヨー釣りなどの催しがされています。利用者の皆さんの笑顔を自分たちの力に変え、日々の自立支援を念頭において取り組み、月ごとに季節を感じて頂けるように、行事を取り入れています。一人一人の能力に合わせて、出来ない事、出来る事を見極め、少しでも、家庭の雰囲気に近い環境を提供しています。また、落ち着いた空間に努め、利用者様の自己決定の元、自由に過ごされています。また、食事もただ提供するのではなく、利用者様の意見を反映させたり、スタッフがバランスを考えたメニューを作成し、楽しみの一つになっております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ニチイグループが全国展開しているグループホームの1つです。管理者をはじめ職員は「本来のグループホームらしいグループホームの姿を」との思いを持って、利用者の自立に向けた支援に取り組んでいます。食事に関しても献立、調理、準備等をいつも一緒に考え、買い物に出かけ出来ることにチャレンジしていただくよう取り組まれています。管理者や職員は取り組みの中で課題を見つけ、自治会に加入し地域の関わりを更に深めるなどその改善を着実に進めた努力の経過がみられます。また、重度化された利用者への対応が大きな課題になってきている中で、ゆっくり、ゆったりとを常に意識しながら職員は何事にも利用者の思いに沿うことに努め、共に過ごす喜びを味わっているホームです。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所の目につきやすいところに掲示し、スタッフ間にて浸透している。	法人の社是、経営理念を基に出来るだけの生活リハビリで自立支援、散歩を頻繁にしてより地域の方と交流を深める等の7項目から加美北のホームの理念が職員によって作られている。ホーム会議で共有を図っている。	7項目の理念は想いのたけが細かに謳われているが、スローガンのような簡潔な言葉にまとめられ皆で共有できるようにされては如何でしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム内駐車場で夏祭り、だんじりの休憩場、地域回覧版にて行事等、よく分かり、ふれあい喫茶や地域祭りにも参加している。	昨年町内会にも加入し、より地域との交流も深まっている。駐車場でホーム主催の夏祭りを実施し、近所に呼び掛け模擬店など出して楽しんでいる。回覧板で得た情報でふれあい喫茶に出向いたり地域での行事には出来るだけ参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ボランティアの参加していただき、また、地域催しの会場として利用されている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、今後の取り組み、助言をいただき、地域の情報交換をしている。	運営推進会議は、町会長、民生委員、地域包括センター等の出席を得て2ヶ月に一度開催している。ホームの現況や予定を報告し、意見や質問を話し合い地域の情報もいただき介護の現場でもサービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターへ定期的に訪問、連絡し、指導や相談を受けている。	運営推進会議の議事録を持参して、担当者顔と顔を合わせ情報のやり取りをする機会を持っている。地域包括支援センター職員も出席する管理者の会議、グループホーム連絡会に参加情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会にて月1回話し合いがあるが、定期的な勉強会を開催していきたい。	定期的な勉強会も実施して、各職員は身体拘束禁止行為についてよく理解している。玄関は開錠されているが、各フロアは施錠されており、外出願望のある利用者とは職員は外出を多く支援し、希望に沿うように努めている。今後は各フロアの鍵も時間的に開けるように検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者とリーダーにて絶えず、スタッフとのコミュニケーションを取り、利用者様の状態観察をしている。		

ニチイのほほえみ加美北(大和路)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用されている利用者様もおられ、今後も必要性を関係者と話し合い、支援していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、重要事項説明書、契約書を時間をかけ説明をしている。疑問点についてはその都度、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回、家族会があり、また行事にも家族様の参加があり、意見や要望をお聞きしている。	夏祭り等のホームの行事と一緒に年2回の家族会を実施し、意見や要望を聞く機会となっている。面会に来られた家族には日常的に意見を聞くよに心がけている。家族からは要望や意見が聞かれ、運営に活かせるよう、検討し取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日ごろからスタッフとのコミュニケーションをとり、意見や、提案ができる環境に努めている。また、個別面談をし、意見を聞く事もあります。	全職員出席のホーム会議では活発な意見が出ている。最近では以前にも増して職員間のコミュニケーションが良く取れているが状況によっては個別の面談の機会を設けている。出された意見や要望に基づいた企画や行事の実践につなげられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度があり、能力に応じて面談や試験を受けて頂き時給アップに繋がっている。夏季休暇などスタッフの働きやすい環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内、外部研修に参加している。また、現場での介護技術の指導体制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、同区内17事業所のグループホーム連絡会があり、意見交換や情報交換(空き情報)の共有をしている。また、講師を招いての勉強会にスタッフが参加し交流の場となっている。		

ニチイのほほえみ加美北(大和路)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訪問、面談時に利用者様の想いや不安などをしっかりと受け止め、サービスに反映している。必要に応じて何度も面会し顔馴染みの関係を作る事もしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様にてホームでの見学時、職員での訪問しての面談時、電話での相談と話し合う機会を持ち、いい関係性作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、家族様からの情報収集し、過去の生活歴、本人、家族様の要望をお聞きし、安心して生活出来るように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	目配り、心配り、思いやり、も持ってスタッフが接している。また、家庭的な雰囲気の中、スタッフから頼る、スタッフに頼られるの関係を大切に生活リハビリを念頭に入れている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、ご本人の暮らしぶりをお知らせし、なかなか面会のない家族様には、はがき(写真貼り)様子をお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お墓参り、自宅への外泊、友人からの電話や来訪など気軽に来訪して頂けるように努めている。また馴染みの場所にも行けるように行事として取り入れている。	友人や知人は気軽に来訪してもらっている。当該ホームはより大阪らしい土地柄にあり懐かしい大阪駅周辺や通天閣に出かけたり、こだわりのたこ焼き屋へ出かけることなど支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様を孤独にさせない為にも、スタッフが仲介しお客様との会話や関わり合いが持てるように支援している。		

ニチイのほほえみ加美北(大和路)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、必要に応じて電話相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と家族の思いや意向を把握し、入居後の日常生活の会話の中や仕草や表情から把握に努めている。	入居にあたって生活歴や好み等を知るために、利用者や家族にセンター方式の記入をお願いしている。利用者の日常生活に対する意向は、本人がふと漏らされたことばを大切に、記録の中で意向を探り検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式に取り組み、生活歴や馴染みの環境を把握するように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしい暮らし、個々の有する能力に応じて自立支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家庭的な環境の元、生活ができるように係っているスタッフや家族様と定期的にカンファレンスを開き意見交換し本人の意向も取り入れている。	家族も参加して行われるカンファレンスにて内容を検討し、ケアプランを作成している。毎月2回のカンファレンスで評価しており、3ヶ月ごとに見直している。見直しに当たっても家族に希望や要望を書いていただき、必要に応じて医師、看護師の指示を頂きプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録した、本人の会話だったり、表情を記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外室、外泊、宿泊、食事提供など、重要事項説明書にて説明している。また、その都度相談を受けている。		

ニチイのほほえみ加美北(大和路)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア、町内行事、などの協力、参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度の往診(内科・外科)と往診医との24時間体制をとっている。歯科の定期的な往診にも対応している。	入居前のかかりつけ医の継続も可能であると伝えているが、入居後は24時間の対応等安心であると、ほとんどの利用者が提携医をかかりつけ医としている。2週間に一度の医師の往診と毎週の訪問看護を受けている。また、歯科往診時は義歯の調整も兼ねて技工士の同行があり安心の医療体制がとられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制は取っていないが、1週間に一度、看護師の訪問があり、利用者様の状態を相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	早期退院出来るように病院関係者との情報交換やホームからのご本人への面会をし情報共有できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	提携医、家族様との話し合いを持ち、ホームとして出来る限りの事をしている。	家族の要望を大切にと考えているが、重度化するなかでホームでの出来ることを見極め、医師から特別養護老人ホーム等の入所を勧め、相談するなど事前の対応を講じる利用者もいる。最近では入居時から重度化している方も多く、提携医や家族との話し合いを重ねて希望に沿う支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルにて、対応出来るようにし、提携医と24時間連絡し指示をいただけるように支援している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スタッフ全体が避難場所を周知できるように非難場所地図を設置、自主防災訓練なども行っている。	消防署立会いの避難訓練を年2回実施している。自主訓練も毎月夜間想定で行っており、車椅子の利用者の移動方法を検討する等、出来ることを工夫しながら実施している。地域に向けては運営推進会議で訓練の予定と報告を行っている。	

ニチイのほほえみ加美北(大和路)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	拒否される事があっても、無理強いせず時間を置き声掛け、人格を尊重している。	基本的には利用者の人格を尊重した対応に努めている。先ずその方を受け入れることを基本に、否定することや無理強いをせず、丁寧に根気よく対応することを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望や相談を聞き、本人への意思確認をが出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせて、希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の希望で、近隣の喫茶店や、買い物に行き、訪問美容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様のお好みを聞き、メニューに取り入れたり、一緒に食事作りや準備をしている。	献立は利用者の希望を聞きながら作っている。食材の買物も利用者と一緒にいき、調理や食事の準備も米を研ぐ方、お茶を注ぐ方等と出来ることを一緒にしている。誕生日には希望の料理にし、時にはたこやきや焼肉パーティーなど楽しみ事の支援もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は一日1000～1500摂取できるように提供している。また個々の状態により、刻み食、とろみ食と柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週、訪問歯科の往診があり、食事後の口腔ケアを徹底している。		

ニチイのほほえみ加美北(大和路)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間帯別にトイレ声掛け、誘導を行ない、リハパンやパットの使用の有無をその都度話し合っている。	自尊心を大切にトイレ誘導を心がけている。職員間では常に適切な自立に向けた排泄支援がなされているか話し合いの場をもっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部マッサージや、運動にて自然排便できるように支援しているが、KOTが続く場合は主治医の指示の元、下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できるだけ希望の時間、希望された日に入浴をして頂けるように支援している。臨機応援に本人の希望を聞き入れ、入浴している。	午後からの入浴で少なくとも2日に一度を基本に支援しているが、毎日の入浴も可能である。拒否傾向のある利用者には時間や職員を変えたりしながら入ってもらっている。ゆず湯や菖蒲湯、時には趣を変えてバラ湯など利用者の希望で楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ、睡眠導入剤を使用しないようにしている。日中の活動を工夫し、昼夜逆転しないように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師や職員にて管理されている。また、薬剤師との相談や連携にも心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や力が発揮できるように環境を提供し、役割を持っていただいています。また散歩や買い物にも出かけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候に配慮し、毎日、近隣の散歩や希望があれば喫茶店や買い物にも出かけている。	買い物に出かけたり、散歩を日課としている。散歩の帰りに喫茶店に寄ることも多く、思いつく場であるたこ焼きを食べに行くなども外出機会ととらえている。季節の外出には花見や紅葉を楽しんだり利用者の要望に応じて出かけている。	



ニチイのほほえみ加美北(大和路)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の希望によって購入したい物があれば、職員と一緒に買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様・友人からの電話、本人様より家族様への連絡とやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同という生活空間の中、一人になれる空間や調理の様子がわかる空間だったり、日の光差し込むリビングや畑を楽しんだり、居心地よく過ごせるように工夫している。	折り紙などでの飾り立てはしないようにと考えており、さりげなく季節感のある飾り物や、写真が飾られている。和室にソファを置いていたり入居者が好みの場所を選べ利用しやすい工夫がなされている。オープンキッチンからは昼食の調理の匂いが漂う家庭的な雰囲気大切にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各箇所に自由に過ごせる空間があり、居心地よく過ごして頂けるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れた、慣れ親しいんだ家具、以前と変わらず生活できるように工夫している。	入居前に床に布団を敷き休まれていた利用者には、ホームでも同じように生活できるように工夫をしている。仏壇を持って来られている方もいたり、家族の写真や小物家具を持って来られ、居心地良く過ごせる居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人が活躍できる場を提供し、出来る事を活かして生活ができるようにしている。		